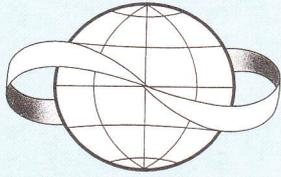


ヴェーナス通信

Venus (静脈) Venus (護美の女神)



第48号

商標登録第4882482号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

電子書籍で紙の消費量が

減少するのだろうか？

昨年十月アマゾンドットコムが電子書籍端末「Kindle」を出し、今年一月アップル社が「iPad」を発売して話題をよんだ。携帯端末の多機能化も進んでいる。

マスコミは、電子メディアと紙メディアとの競争になり、やがて紙関連産業が衰退するのではと報じている。

リーマンショック以後

紙・板紙の生産量は激減し、昨年は二十年前の水準まで落ち込んで、一昨年よりも四百三十五万トンの大幅減となった。

今年上半期の紙・板紙生産量は、前年同期比で7%近く持ち直している。しかし新聞用紙は、昨年よりさらに1%以上減少し、書籍や雑誌類の発行部数も昨年同期より2.8%減少した。

だがお隣の中国では、昨年は前年より一千万トン増産となり、米産国を抜いて世界一の紙・板紙の生産国となった。

今年上半期も13%以上の伸びを示している。

つまりアジア圏全体で見れば、紙・板紙の消費はリーマンショックの影響も無く増加中である。

このような時期でもあり、

電子書籍で紙の消費が落ち込んだのか不況の影響なのか判断できないデータはまだ少ない。

iPadは、アメリカで百万台出たそうだが人口比で見れば僅か0.3%程度、日本ではそれ以下だ。

電子新聞「日経Web」も有料会員は購読者数の2%程度と伸び悩んでいる。あまり本や新聞を読んでいる人がiPadなどを求めているのではと云う見方もあり、どちらも継続して購読するとの声も大きい。

本や雑誌・新聞などが消えてゆくかのような報道は、マスコミの過剰反応だったようにも感じる。

しかし、携帯などで必要な情報の殆どが得られるとなれば、若年層の新聞・雑誌離れは避けられないのかもしれない。

メディアの広告出稿状況は

インターネットの拡大によって、広告の掲載量が雑誌や新聞テレビから電子メディアに流れていることは確かだ。既存のメディアの経営悪化さらには廃刊や減ページになっているところもある。

新聞は、販売店の経営を支えている折込チラシの減少も深刻化しているように宅配制度にまで影響を及ぼすことも考えられる。

各国の紙・板紙消費量は

国民一人当たり一年間(〇八年)の実績を比較してみると、米国内二六六kg・ドイツ二四七kg・日本二四二kg・イタリア一九一kg・英国一八五kg・フランス一六八kgと先進国でもかなりの差がある。

ブリックス各国は、中国五九kg・ロシア四六kg・ブラジル四五kg・インド九kgと、対先進国とは大差がついている。

今年の日本人一人当たりの消費量は、上半期実績から推測すると二二〇kg程度、中国は七〇kgに達すると見込まれている。一三億人以上の人口だから中国の総生産量は一億万トンを超すことになる。

先進国と途上国の紙・板紙の使用量は、CO2削減問題と類似しているところが多い。

途上国の消費拡大を恐れる前に再生資源の価値をさらに高めるとともに、先ず先進国が消費削減を断行しなければ、地球資源が枯渇すること必然である。

カルテや教科書などを電子化する企画も進んでいると聞くが、今後さらに紙に変わるものの積極的な電子化が進むことは、むしろ望ましいことなのかもしれない。みどりの地球で持続可能な平和共存をするためには！ (T・K)

リサイクル適性 (A)

直言拝聴

美住リサイクルショップの取り組み

美住リサイクルショップ運営委員副委員長
東村山市廃棄物減量等推進審議会委員

秋本幸子様

美住リサイクルショップ の取り組み

東村山駅近く、東村山郵便局から鷹の道を東大和方向に三〇〇mくらい進むと、左手に木造平屋建ての建物がある。よく、うどん屋のようだと いわれるが、これが「夢ハウス」、私たち美住リサイクルショップ運営委員会の拠点だ。平成十年七月に開館している。庭では、ときどきフリーマーケットが行われているので、ご存知の方もいると思う。

建物に入って、左側には、展示室があり、粗大ごみを再生した家具や小物、引取りした衣料などが販売されている。家具の再生と販売は市が行っている。右側にある活動室が、美住リサイクルショップ運営委員会（以下、委員会）が運営するスペースだ。委員会主催のリサイクル講習を行うほか、ごみ減量、リサイクル、環境保全に関係する催しに限って市民に貸し出しを行っている。



美住リサイクルショップ 設立の経緯

今から十五年ほど前、ごみ焼却によって排出されるダイオキシン問題が世間を騒がせていた頃、東村山でもごみの処理方法について、市民参加の協議会がいくつか作られていた。中でも「秋水園再生計画推進市民協議会」の報告書「秋水園再生計画の推進プラン98」で「ごみは燃やさない、埋め立てない、この街にも迷惑をかけない」という理念が提言された。その具体策の一つにリサイクルプラザがあり、美住リサイクルショップが設立された。報告書の作成で終わらせずに、市民参加を継続していくという、まさに市民協働のさきがけであった。

従って、美住リサイクルショップは、単なる再生品の販売所ではなく、ごみ減量、リサイクル推進活動、環境情報の発信を市民参加で行うための施設である

構造が自然素材を用いた木造の建物になったのは、設計段階から市民が加わった成果であり、「夢ハウス」という愛称も、開館時に市民から募集してつけられたものである。

運営委員会

活動目的を、ごみ減量、リサイクル推進、環境保全の啓発活動とし、公募によって選ばれ、市長から委嘱された市民で運営委員会は構成されている。任期は2年。現在は第6期で、十四名の委員がいる。今年十一月から第七期となる。委員会の事務局は、資源循環部リサイクル推進係が担当、委員会は活動の企画とその実働にあたる。

他市で見られるような団体への業務委託ではなくて、委員会の活動予算も企画にに応じて要求できる（資源循環部の一部）など、かなり稀な運営方法なのではないだろうか。もちろん委員の側も、税金を無駄にしないという自戒が必要だが、このシステムのおかげで、行政では出来ない自由で主体的な活動を行っている



運営委員会の活動

- 講座の開催・・・ミシンを使い着物や不要な衣類をリフォームして、バッグやベスト作り。古布での草履作り、さき織りなどの講習。小学生中心の環境学習、実験教室、リサイクル工作などを開催
 - 市内イベントへの参加
みどりの祭典、産業祭など、市内の様々なイベントに出展し、ごみ分別クイズ、自転車発電などを実施
 - おもちゃの病院
 - 市内小中学校への出前講座
 - ごみ講座の開催
 - 衣類引取り
 - フリーマーケット
 - 夢ハウスだよりの発行
- 年三回、市内全戸配布している、ごみや環境に関する情報誌「夢ハウスだよりの発行」
- 講座の具体的な内容を紹介すると、最近小学三年生以上を対象に実験教室と資源回収業者の工場見学を行った。小学三～五年の子供たちはエネルギーの実験に積極的に手を出し、地球温暖化の問題にもしっかりと反応してくる。いつも思うことだが、ここに来る子供たちは、頼もしくも、神々しくも見えてくる。だから暗い話で終わらずに、科学の進歩で明るく快適な

未来が作れるはずと話している。・・・期待を込めて。

工場見学では、紙類と容器包装の回収工場として、三栄サービスと加藤商事に毎年ご協力いただいている。三栄サービスでは、トラックやフォークリフトが動き回る現場を体感し、雑紙の山からはルール違反の物を宝探しのように見つけている。紺野部長の説明にメモを取り質問をする。加藤商事ではパッカー車から落とされる回収物の迫力にビックリ。岩崎工場長の話に、選別ラインも悪臭も一部のルール違反のためと知り、ルールを守る大切さを実感した。

大人も子供も現場を見ることが啓発の一番の方法だとも思う。

また衣料のリフォームも古布のクラブ講座も大人を対象に、楽しみながらごみを発生させない啓発活動になっている。



今後の取り組み

夢ハウスができた当初は、市の分別収集もまだ改善の余地があったし、プラスチック容器のリサイクルシステムをすすめる「容器包装リサイクル法」や廃棄物のリサイクルを推進する「循環型社会形成推進基本法」などの法律の整備もまだであったため、市民の側からのごみ減量のためには、分別収集し、リサイクルするべきだ」という意見も有意義なものだった。さらに、分別収集が行われていても、市民の出し方のルールが守られていないと、余計なコストがかかり、リサイクルできないという点において、啓発活動はとても重要であったし、今後も続ける必要がある。

変わりつつある今こそ、逆に、委員会の果たす役割は大きくなってきたと言える。

排出抑制は、市民ひとりひとりが、意識して取り組まないと、実現できない。「レジ袋を断る、包装の少ないものを選ぶ、使い捨ての製品を買わない」など、市民としてはなく、消費者としての行動が問われてくる。こういった働きかけこそ、市民参加の委員会の取り組みが有効であろう。

市民協働で排出抑制を

東村山市では、この4月より、市民協働課を立ち上げ、市民参加を進めようとしている。また、国も、新しい公共という形で、国民が参加する新しい公共事業の仕組みをすすめている。行政にお任せするのではなく、主体的に行動しなければ、住みやすい街と環境を守っていくことはできないという考えからだ。

市との協働を十年にわたって続けてきた委員会の活動にもっと多くの人に関わってもらうために、今後も励んでいきたい。

温暖化問題がクローズアップされ、大手スーパーや企業がこぞつてマイバッグ削減などごみ減量の取り組みを始め、消費者の意識も

考えている。

温暖化問題がクローズアップされ、大手スーパーや企業がこぞつてマイバッグ削減などごみ減量の取り組みを始め、消費者の意識も

※秋水園・・・東村山市秋津町にある市のごみ焼却炉、リサイクル施設があるところ。中間処理施設。

早朝持ち去り業者の実態調査

当組合では、日の出時間が早くなり、梅雨の明ける七月の発生期にかけて多発すると思われる持ち去り業者の実態調査のため、早朝五時よりパトロール巡回を行いました。

今回は、当組合が回収の委託を受けている東村山市のみで実施したが、組合の軽バンにパトロール中の横断幕と委託業者であることを示すステッカーを貼付し、回収エリア全域を回収開始の八時三〇分まで巡回しました。

持ち去り防止条例が施行されている自治体とそうでない自治体では、条例のない自治体の方が持ち去り被害が多発しています。条例があっても、条例のない自治体との近接地域や回収日が同じ日にあるような場合、被害が増えている傾向にあります。

また、最近の持ち去り業者は新聞だけでなく、梱包の良い雑誌や古布まで持ち去るケースも多いようです。車両も、トラックだけでなく、ワゴン車を使用したケースが多いようで、なかなか持ち去り業者を発見しづらい状況になって

おります。

それでも、二カ所で先ほどまで置いてあった新聞の束が持ち去られてなくなっている現場と、マンションの集積所から持ち去りを行っているトラックを目撃しました。とは言え、広範囲にわたる回収エリアを軽バン一台でカバーするには無理がありますので、もし、近所で持ち去り業者を発見した場合、当組合(042-395-9788)か

市役所に通報して下さい。

今後もし引き続き朝七時からの早朝回収・パトロールを継続してまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

●「日資連・東資協でも「持ち去り」の要望書」を提出

当組合以外の関係組合でも「資源の持ち去り」に対する対策に活

発に取り組んでいる。

日本再生資源事業協同組合連合会(日資連)では、国内製紙メーカーや古紙輸出商社宛に、「持ち去り古紙の流通阻止運動」への賛同の要望書(5P)を提出している。また、東京都資源回収事業協同組合では、東京都内に集団回収団体宛に、「集団回収の持ち去り取締まり強化に関する署名」の運動を実施している。(左図)

平成 22 年 8 月 日

集団回収団体 各位

東京都資源回収事業協同組合
理事長 吉川 太郎
(公印省略)

集団回収の持ち去り取締り強化に関する署名のお願い

拝啓 平素より集団回収事業にご協力いただき、ありがとうございます。

さて、皆様もご存知の通り、都内各地区の集団回収において不法な「持ち去り」が横行し、貴重な資源のリサイクル活動に多大な被害を与えております。住民の皆様のご協力によって提供された再生資源の持ち去り行為は許されるものではありません。そこで当組合は警視庁はじめ関係機関に対して、更なる取締りの強化をお願いしたいと考えております。

つきましては、このような「持ち去り」行為が自治体から皆様への助成金即ち貴団体の財政や地域の安全性に与える弊害をご理解いただき、下記に賛同のご署名を賜りたくお願い申し上げます。

(問合せ先) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-21-1
東京資源会館 5 階 東京都資源回収事業協同組合 (略称 東資協)
TEL03 (3263) 3676 fax03 (3263) 3679
ホームページ <http://www.toushikyo.or.jp>

敬具

記

当団体は、東京都資源回収事業協同組合が関係諸機関に対して、集団回収からの不法な「持ち去り」について取締まりの強化をお願いする件に賛同いたします。

平成 年 月 日

地域名 【 市・区・町・村】

貴団体名 【 】

登録世帯数 【 】

代表者名 【 】

以上

頂いた署名は上記に関する目的以外は一切使用致しません

平成22年 8月10日

国内製紙メーカー・古紙輸出商社
代表取締役社長 ○○○○ 様

日本再生資源事業協同組合連合会
会 長 上 岡 克 己
東京都千代田区三崎町2-21-1
TEL: 03-3263-9101

お 願 い

「持ち去り古紙の流通阻止運動」にご賛同下さい

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

日本再生資源事業協同組合連合会（日資連）は再生資源を回収する業者で構成する全国団体であり、所属する業者は地方自治体や地域住民及び民間事業所と連携し、各地域の古紙リサイクル事業を推進しております。

さらに全国で実施している行政回収や集団回収は、近年の驚異的な古紙回収率の推移を見ても解るように、安定した3R型資源リサイクルシステムの重要な手段ともなっています。

しかしご承知のように、このような地域に根ざした回収現場から、古紙などを不当に持ち去る行為が全国で頻発する事態となってきました。そのため「古紙持ち去り阻止条例」を制定する自治体も多く見られ、その抑止に向けた動きが加速されていますが、効果は期待されるほど顕著ではありません。

まずは関係業界が率先して、「持ち去り古紙」の流通を阻止し、正常なルートに戻す運動を実施しなければ、業界の信用と秩序を失い、市民や自治体の協力が得られなくなり、古紙回収率の維持や再生の促進も不可能になる筈です。また不正に流通した製紙原料の使用は、「古紙混入率偽装問題」以上にリサイクル市民の感情を無視することになっているのではないのでしょうか。

つきましては、「持ち去り古紙」の流通を阻止する運動にご賛同頂いて正常な古紙リサイクルシステムの構築にご協力を切にお願い申し上げます。

要 望 事 項

日資連の「持ち去り古紙流通阻止運動」に賛同の意思表示を、頂きたいをお願い致します。

(日資連ホームページに掲載させていただきます。)

《記》誠に恐れ入りますが、別紙にご記入頂き、平成22年8月31日までにご回答賜りますようお願い申し上げます。

日資連・全国大会 (沖縄大会)に参加して

●大会と記念講演

去る六月二十五日(金)午後二時より、日本再生資源事業協同組合連合会(以下「日資連」)の第三十八回全国大会(沖縄大会)が、全国から一五〇名の参加の下、沖縄県中頭郡読谷村の「沖縄残波岬ロイヤルホテル」で開催された。

司会者の開会宣言の後、六月二十三日(水)の「沖縄慰霊の日」を悼悼するため、戦争の犠牲者の方々に黙祷を捧げた。

続いて、沖縄大会参加への歓迎の辞(沖縄県ゼロエミッション事業協同組合・玉城理事長)と上岡克己会長の挨拶があり、更に日資連総会(五月十四日、東京・霞ヶ関ビルにて開催)の報告と新役員紹介が行われた。



また、紺野武郎前会長(当組合理事長)が、その慰労と功績から表彰され、感謝状と記念品が贈呈された。

最後に、次期大会の開催地を群馬県と決定し、群馬県再生資源事業協同組合連合会の茂木副会長の閉会の辞をもって、全国大会式典は無事終了した。

引き続き、国指定重要無形文化財「組踊」の伝承者・神谷武史氏による記念講演が行われ、神谷氏本人と共演の若者による沖縄古来の踊りとウタが披露された他、沖



縄民謡と踊りの由来・特徴について、琉球芸能や組踊り等の話を含めながら説明があった。

●沖縄の「素顔」を知る旅

翌六月二十六日(土)と二十七日(日)は、総勢約三十名の参加による日資連全国大会(沖縄大会)の記念研修が行われた。

まず土曜日は、「美ら水族館」と「ブセナリゾート海中展望台」を見学し、沖縄の美しい「海」と

「珍しい魚たち」を堪能した。

続いて日曜日は、琉球王朝の象徴である「首里城」を見学した後、第二次世界大戦(太平洋戦争)の沖縄戦の傷跡を克明に示した「平和祈念公園(平和の礎)」・「ひめゆりの塔」を訪ね、米軍の日本本土攻撃を阻止するために、沖縄の地で戦塵に散って行った兵士や一般住民・女子学生の無念を思い、戦争の悲惨さを改めて痛感した。

美住リサイクル ショップ講習会

去る七月二十八日(水)午前十時より、東村山市の美住リサイクルショップの運営委員十二名と市の担当者一名の合計十三名が来組し、組合員の古紙選別ヤードを見学した。

見学終了後、組合事務所2Fにて、当組合の紺野理事長が、「資源リサイクルの現状と今後の課題」というテーマで講習した。

講習で紺野理事長は、「紙・板紙の生産」、「古紙・パルプの消費」、「古紙の回収率・利用率」、「古紙の輸入・輸出」、「古紙価格・在庫」、「世界と日本の粗鋼生産」、「鉄スクラップの国別輸出」、「鉄屑・非鉄屑の価格」の過去からの推移と現状について詳細に解説した他、「古繊維・びん・スチール缶・アルミ缶・ペットボトル・廃プラスチック」のリサイクルの現状についてに説明した。

また、最後に、「行政の資源リサイクル事業に対する対応」や「リサイクルの問題点」を提示し、更に、「資源の抜き取り問題」について現状と対策を説明した。

説明終了後、参加者との間で質疑応答が行われ、参加者からは、「地域の集団回収を初めて行うのだが、どうしたらいいか」という質問に、「市役所へ登録後、当組合を通して、集団回収業者へご相談頂ければ、集団回収の運営には全面的にご協力をさせていただきます。」と回答した。

その外にも色々な質問がでて、予定時間を超えた懇談となった。

各市リサイクル フェアに参加

清瀬環境フェアに参加

5月23日(日)清瀬市児童センター(ころぼっくる)で行われた環境フェア清瀬に参加した。

環境をメインとした形でのフェアは今年で3回目となるが、今回は「ぐるっと回って考えよう 水・ごみ・みどり」というテーマで行われた。

3年連続の参加になるが、フェアの日は余り天気には恵まれておらず、今回も雨の中の会場設営となった。

会場では古紙のリサイクルに関するパネルを掲示し、そのパネルを見ながらクイズに答えてもらった。古紙や資源物のリサイクルのニュースや情報は何かから取り入れるか?どのような回収に出しているか?また持ち去りが問題になっている市の古紙の資源回収日には何時ごろ出しているか?などのアンケートやクイズに答えてもらった。我々業者の意見も聞いて頂き、より良い資源物リサイクルPRを図った。ちなみに「コロボックル」とはアイヌに伝わる身長3センチ弱、体重1グラムぐらいの太って

いる小人族の名前だそうです。今回のテーマでもあるように清瀬にはまだまだ自然やみどりが沢山残っています。この環境の維持と、より良いリサイクルシステムづくりに組合としても協力して参ります。来年こそは好天になりますように!



第25回 東大和市

環境市民の集い

平成22年6月6日 10:00スタートとなった。

暑い激しい日差しの中でも、沢山の市民が来て、イベントに参加したり、フリーマーケットでの買い物を楽しんでいた。中学生吹奏楽部の演奏も素晴らしく、また、小学生3、4年生による環境絵画展も子供たちの気持ちがよく描かれていた。

組合として出展参加するのは3年連続で、今回もパネルを掲示し、その中から出題したクイズや、アンケート調査を行った。

実行委員で行っているスタンプラリーは36番目となっているのも幸いして、開催して少し経つと市民がテントから溢れて順番待ちが出来る時もあるくらい大忙しの状況となった。

アンケートの中に「持ち去り古紙」について意見を求める個所があったが、ほとんどの参加者が一様に迷惑をしていると答えていた。他にも普段の生活の中で多くの市民が子供を含めて環境を意識した生活をしている事を感じた。

大変暑い日ではあったが、リサイクル意識をより多くの市民に広げるために組合としての参加はこれからも必要だと、使命感に燃えた1日であった。



吉浦高志

環境フェア リサイクルクイズ 集計報告書

(回答者数: 清瀬市 168名/東大和市 78名)

Q1		
①	6	名
②	150	名
③	9	名
④	3	名

Q2		
①	1	名
②	1	名
③	166	名
④	0	名

Q1. 古紙利用率が60%を超えたのは、何年でしょうか?
 ①2000年 ②2003年
 ③2005年 ④2007年

Q4. 次のうちリサイクル出来ない古布はどれでしょう?

- ①ぬいぐるみ
- ②汚い雑巾



- ③Tシャツ
- ④濡れた古布 (雨の日にさらされた古布)

Q3		
①	1	名
②	3	名
③	6	名
④	155	名
⑤	3	名
⑥	0	名

Q4		
①	1	名
②	2	名
③	163	名
④	2	名

Q2. 古紙は回収業者が回収した後最終的にどこに運ばれるでしょうか?
 ①東京湾
 ②ワリ塚処分場
 ③製紙メーカー
 ④自動車メーカー

Q3. 次のうち古紙としてリサイクルできる紙はどれでしょう?

- ①写真
- ②裏カバー紙
- ③感熱紙
- ④お菓子の箱
- ⑤シールの台紙
- ⑥金紙・銀紙



清瀬

東大和

コラム

カムカムコーナー

「西東京いこいの森公園」

今年も十一月十三日・十四日の両日にて西東京市民まつりが開催されます。

今回のカムカムコーナーはその西東京市民まつりの開催場所「西東京いこいの森公園」をご紹介します。西東京市いこいの森公園は旧田無市と旧保谷市が平成十三年一月二日に合併した記念として東京大学原子核研究所跡地に市内最大規模の公園として平成十七年四月二十九日に開園いたしました。場所は西武池袋線ひばりヶ丘駅と西武新宿線田無駅を結ぶ谷戸新道のちょうど中間あたりに位置し広さは約4.4ヘ



クタール、東大農場や東大演習林に隣接されているせいもあり、大変緑豊かな公園です。

園内はアプローチゾーン（歩行者専用路）・プレーゾーン（パークセンター、スケート広場、ボール広場）・雑木林ゾーン（雑木林、ジョギング走路）・原っぱゾーン（原っぱ広場、子供広場、自然観察池）の4つのゾーンで構成されており、休日的一步足を踏み入れるとジョギングやウォーキングを楽しむ人、犬の散歩を楽しむ人、子供達の大きな笑い声で大変な活気に満ちています。予約が必要ですが、園内にはパーベキューコーナーがあり一人でも大勢でも一年中楽しめる公園です。

今年の市民まつりは第十回記念の盛大な会が予定されています。この機会に是非皆さんも足を運んでみてください。

小平市三中職場体験学習

平成二十二年七月八日と九日の二日間、小平第三中学校「職場体験学習」を(株)土井商店、(株)三栄サービス、(株)水野商會が受け入れをしました。

前日に、事前打ち合わせに来た生徒さん達は、はじめての仕事に緊張と不安の入り混じった面持ちで、説明を聞いていました。

当日、少し早めに会社に集合して、朝礼で作業に関する注意事項を確認し、車両点検をして作業開始です。

酷暑が続く、体調が心配でしたが部活などでスポーツをやっていた



るから大丈夫ですと心強い言葉を聞いて、安心しました。午後から組合事務所、古紙の分

別などのリサイクルに関する勉強会を行いました。

二日間という短い時間で、どれだけ働くというのを教え伝えていくことができるのか？という考えは、最終日終礼をした時の生徒さん達の顔が少しだけ自信と達成感のある大人びた顔に変わっていたのを見た時に杞憂であったと感じました。

後日、生徒さんからお礼状が届き「貴重な体験ができました。」と書いてくれていました。

それを見て自分のはじめての仕事をした時のことを、ふと思ひ出しました。

緊張と不安、そして目標や夢を持って臨んでいた時のことを。

今回の職場体験が、参加した生徒さん達の将来就職するときのなにかの参考になってくれたらなと思っています。

みんなお疲れ様でした。



東村山市資源回収を 楽しくすすめる会

五月二十三日、東村山市市役所北庁舎第二会議室にて『集団回収団体連絡会』七月三十日に東村山市市民センター第一会議室にて『アクリルたわし講習会』に参加しました。



「資源回収を楽しく進める会」とは、東村山市資源循環部と連携して集団資源回収の推進や、環境に優しいイベントの開催、リサイクルに関する施設見学会の実施などを行っている非営利団体です。『集団回収団体連絡会』では、集団回収団体の役員の皆様に対し、資源回収の昨年度の実績等を報告し、また、質疑応答を行いました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、資源物の持去り問題、古紙・古布価格の現状が話しあわれました。参加して頂いた皆さんの集団回収に対する意識の高さを感じました。

各団体の皆様の御協力により、集団回収は円滑に行われています。『アクリルたわし講習会』では、二十五名の方が参加されました。アクリルたわしとは、アクリル



系(PS)の毛糸で作るたわしです。アクリル特有の細かい繊維でできている弾力性のある毛糸と、毛糸どうしが生み出す通気性・通水性のおかげで、マイクロレベルの細かい汚れをかき出して取り込んでキレイにしてくれるのです。洗剤を使わないため、手肌をいためず、水を汚しません。お手入れも、水洗いをして干して乾かすだけなのでとても簡単です。作り方は、牛乳パックを利用した編み機又は編み棒を使い、編み込んでいきます。今回はじめて作って見たのですが、一時間ほどで完成しました。アクリルたわしは、「見て」「作って」「洗って」楽しいたわしです。身近なところから一緒にエコを始めてみませんか？

(青年部 水野)

子どもエコ広場・見学会

去る八月二十四日、東村山市の美住リサイクルショップが主催の子どもエコ広場リサイクル施設見学会御一行が、当組合員の古紙問屋、㈱三栄サービスを見学に来ました。

リサイクルショップ運営員の方々、市役所の職員の方々と共に、五名の小学生がメモ書きを持って熱心に説明を聞いて頂きました。回収のトラックが台貫で計量し、品目ごとに新聞、雑誌、段ボールと下ろしていく様子、選別作業の様子、プレス工程と、最終的にどこに運ばれどのようにリサイクルされるのかまで説明しました。

現場に山積みされる古紙の山や、パッカー車が古紙を豪快に開けていく様を見て子どもたちはびっくりしていました。最終的にプレスされた古紙を見せて、『この紙の塊はこの後どのように処理されるでしょうか?』と質問したところ、いの一返り『秋水園で焼却する!』と返ってきたときには正直ずっこけてしまいました。

『この紙の塊はこの後どのように処理されるでしょうか?』と質問したところ、いの一返り『秋水園で焼却する!』と返ってきたときには正直ずっこけてしまいました。

まいりましたが、茨城や静岡の製紙メーカーでまた紙に生まれ変わるんだよと説明するとまたメモを取ってくれていました。

最後の質問コーナーでは、『このリフレットを見ると茨城営業所があるようですが、先ほど製紙会社があると言っていた静岡には何故営業所がないのですか?』なんていう鋭い突っ込みも来ました(笑)

『現状は、九割方茨城のメーカーに納入しているので静岡には営業所がないんです。静岡のメーカーに納入分が増えたら静岡営業所を作るから、それまで待ってくださいかな?』とその場しのぎな回答をしてしまいました。地域の未来を支える青少年の声に頑張っただけでいかなくてとは決意を新たにしました。

ともかく、普段何気なく出している資源がこのように処理されているということも少しでもご理解頂けたでしょうか? (青年部D)



気になる語源

(その一)

不思議な言葉や言い回しの語源を調べてみると諸説はあるが、なるほどと思うことがよくあります。

◎への河童・河童のへ

カッパ↓コッパ↓「木葉」

へ↓ヒ↓「火」 木の葉に火

◎月とスッポン

スッポン↓シユボン↓朱盆

◎猫も杓子も

ネコ↓女の子

シヤクシ↓セキシ↓赤子

◎オシヤカ

鋳物職人が製造工程で失敗したとき、「火が強かったか」↓「シガツユエーカ」↓四月八日

(お釈迦様の誕生日)

◎ヘチマ

糸瓜↓イトウリ↓トウリ

「ト」は、いろはの「へとちの間」↓へちま。「唐瓜」説もあり

◎左利き・左党(飲み助)

鉾山で右手に槌 左手にノミを持つ。↓のみの手

◎上戸・下戸(酒が飲めない)

奈良時代、男子を四人育てると上戸といい、盆暮酒が配られた。

三人以下は下戸と言われた。

◎B玉

ラムネのビンに使えるのがA玉 使えないものを玩具で売った。

◎優しい

痩せる(わが身を削って尽くす)

↓やす↓やさしい

「環境に優しい」とは、まさに消費活動のスリム化なり (紺野)

行事・行動

【平成二十二年六月】

四日…(社)東リ協会持去り対策

五日…日資連臨時理事会

六日…東大和市環境市民の集い

八日…東資協理事会

一日…定例理事会

四日…古紙C理事会業務委員会

…小平RC安全会議

…事業系古紙回収PJ

…(社)東リ協会・理事会

一六日…中央会・組織委員会

一九日…古紙市民行動ネット総会

二三日…東村山市・廃棄物減量審

二四日…青年部会議

二五日…日資連・沖縄大会

三〇日…事業系古紙回収PJ

【七月】

二日…古紙C・特別委員会

六日…事業系古紙回数PJ

八日…小平三中・職場体験

…東資協・理事会

一二日…定例理事会

一三日…小平RC安全会議

一六日…財務委員会

一七日…日資連理事会

二〇日…(社)東リ協会理事会

二一日…東村山市・廃棄物減量審

二三日…東リ協会・都との懇談会

…東大和市・廃棄物減量審

…青年部会議

二六日…古紙C・特別委員会

…集団回収委員会

二八日…美住リサイクルS運営委

…研修会(組合会議室)

三一日…組合員家族慰安会

【八月】

二日…日資連・持去りPJ

九日…東資協理事会

一日…定例理事会

一三日…広報委員会

一七日…東リ協会理事会・総会

…小平RC安全会議

二一日…日資連・SK委員会

二四日…青年部会議

二四日…東村山市子供エコ見学会

二六日…事業系古紙回数PJ

…広報委員会

三一日…東村山市・廃棄物減量審

【九月】

八日…東資協理事会

一〇日…定例理事会

一一日…日資連・持去りPJ

…小平市エコフェスタ

一四日…古紙C・特別委員会

…小平市・廃棄物減量審

編集後記

- 一六日…日資連・理事会
- 二一日…(社)東リ協会・理事会
- 二六日…閑資連・通常総会
- 二九日…古紙C業務委員会
- 三〇日…古紙C紙リサイクルセミナー

「古紙持ち去り」を阻止する運動が盛り上がって来ている。千葉県の請願書が採択され、東京都でも対応策の強化を急いでいる。

また、回収業界の東資協、日資連も活発に活動している。すぐに解決は難しいとは思いますが、長い間苦しめられてきた自治体や、業界・市民にとっては希望が見えて来た。

冬が平年より寒いと夏も暑くなると聞いたことがあるが、今年はビックリの年である。暑くて仕事はきつい、クーラーや水物、夏商品がよく売れ、パッケージに使われる段ボールも生産・販売が昨年より良好だ。広告チラシ・新聞のページ数はまだ伸び悩んでいるが、今後どうなることやら？

上海万博も終わりに近づいているが、北京オリンピックの後に起きた再生資源価格の暴落が再現されないか心配である。

吉浦 高志